

モデル校アンケートについて

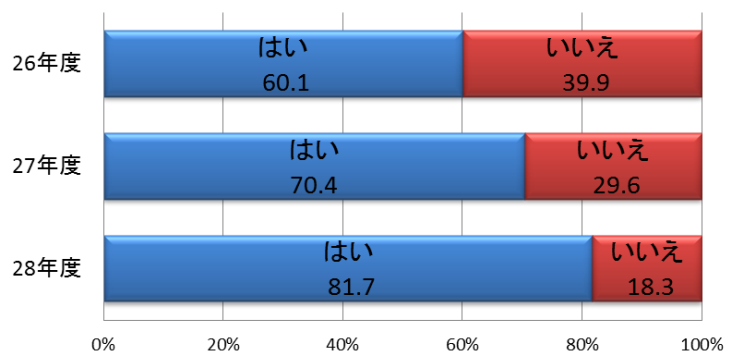
10月に実施したエネルギー教育モデル校アンケートへの記入ありがとうございました。昨年度同様、その結果を、今月から何回かに分けてこの通信で紹介いたします。モデル校も、今年で3年目。これまでの経年変化を見ていきましょう。

この結果には、がっかりです。まだ、2割近い生徒が、「エネルギー教育モデル校」とわかっていないとは、どういうことでしょうか。この通信を読んでいるのでしょうか。生徒会の取組を何となく見ているのでしょうか。残念です。

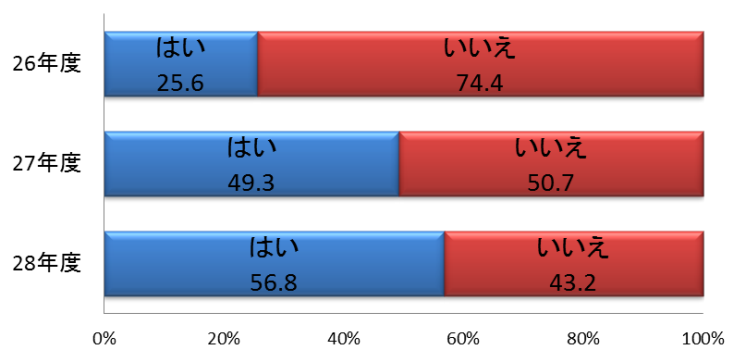
さて、それでも8割以上が、モデル校と認識していることもあってか、学校で省エネを実践したことがあると答えた生徒が、半分以上を越えました。実は、加古川シエスタそのものが、省エネ活動でもあるので、全員が実践したことになるのですが、自ら進んでやっ

ていないので、この結果になったのかもしれませんが。誰もいない教室の電気を消したり、出しっ放しの水を止めたり、学校でできる省エネもたくさんあります。みんなの小さな積み重ねが、大きな省エネにつながります。学校だけではなく、家庭でも、いろいろな省エネにチャレンジしましょう。

エネルギーモデル校と知っている



学校で省エネを実践したことがある



70周年記念式典でシエスタを紹介

今年は、本校創立70周年です。19日には、記念式典が行われました。その式典で、生徒会から、日頃の活動の様子が寸劇で紹介されました。右の写真は、シエスタのようすを紹介したものです。この他、プレゼンでは、エネルギー関連施設の訪問の様子やスペインのシエスタと加古川シエスタを比較して発表するなど、エネルギー教育モデル校として取り組んできたことが、地域や保護者の方々に伝えられました。



エネルギーレポート No. 7

前回に続き「灘浜サイエンススクエア」を紹介します。報告は、厚生委員長の杉本一真が担当しました。今回が、現生徒会役員、最後のレポートとなります。



神戸製鋼神戸発電所

今回、火力発電所について学びました。僕の知識では、「とにかく環境に悪い」というイメージがあり、水力発電の方が、よっぽど地球にやさしいと思いながら説明を聞いていました。しかし、よく考えると、今の日本のエネルギーの半分以上を担う火力発電について知ることは、「日本のエネルギーを知る」ことになります。今の火力発電は、ただ単に石炭を燃やし、水を水蒸気にし、その蒸気力でタービンを回すというだけではなく、いろいろな工夫がなされていて、環境にたいへん配慮されているところが印象的でした。「環境に悪い」イメージは、煙突から黒っぽい煙がたくさん出ていることでしたが、今の火力発電の煙突からは、水蒸気しか出ません。これには秘密があって、環境に悪い物質は、途中で取り除いているそうです。また、タービンの形も工夫されていて、より回りやすくされていて、膨大な量の発電をすることができるようです。

その膨大な量を体感させてくれるのが、左の写真のアトラクションです。ちょっと重い空気みたいなものを60秒間で何回上下できるかカウントするものです。部活動引退後の、久しぶりの全身運動となりましたが、この日の最高記録114回を達成しました。しかし、この発電所では、この114回を上下させる力の1500万倍ぐらいのパワーで発電しているとのこと。正直、ピンときませんが、とにかくすごいことがわかりました。

何となくですが、日本のエネルギー供給の実態を知ったような気がしました。(杉本一真)